リスクマネージャー・メールマガジン

京大病院　医療安全管理室

2022/10/27 発行

京大病院　リスクマネージャーのみなさま、こんにちは。10 月は、リスクマネージャー全体会議でコミュニケーションをとることができました。

とはいえ、今月もメールマガジンを配信します。

医療安全管理室では、そのときの社会のタイムリーな話題を紹介しながら、リスクや安全に関する用語をご紹介しています。

今回は、私たちの脳にある **2 つの思考システム**をご紹介します。

項目：

1．システム１：衝動的で直感的＜速い＞

2．システム２：論理的思考能力＜遅い＞

1．システム１：衝動的で直感的＜速い思考＞

筆者は、ダニエル・カーネマン（著）のファスト&スロー（英語標題：Thinking, Fast and Slow）を愛読しています。

カーネマンの考えでは、私たちの頭の中には、2 つの思考システムがあるといいます。ぱぱっと判断して、時間をかけずに、直感で結論を出すのが「システム１」です。

例えば、皆さんの元には日々、何十通～何百通の電子メールが届きませんか？全て読んで、必要かどうか判断できていませんよね（されている方、ごめんなさい）。手紙の時代と異なり、簡単に数千人でもそれ以上でも、メールを無料で配信できるので、関係ない人にも一括して送信されますね。

タイトルだけみて、要らないメールと瞬時に判断しなければ、仕事になりません。パパッとスクリーニングしてくれるのがシステム１です。

ただ、ときに落とし穴があります。電子カルテ上も様々な通知が来ます。検査結果が出ました、他科依頼の返信が来ました、等。患者さんのカルテを開くたびに、通知される情報が多いですね。ただ、ときどき、あちこちの病院で、画像診断や病理診断の報告書をよく読まずに重要な情報が頭に入っていないというインシデントが発生しています。

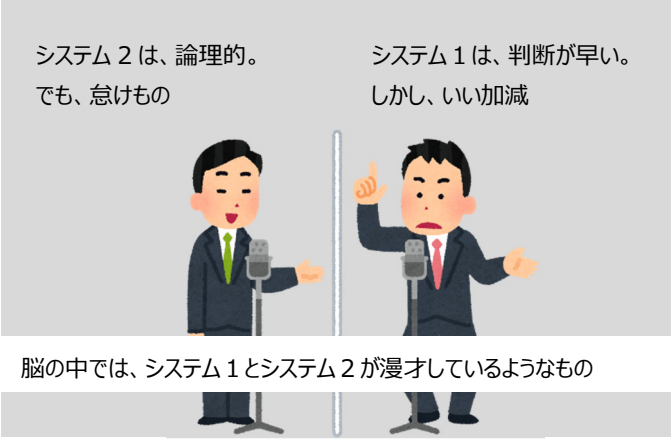
自分の頭の中に住みついているシステム１といかにうまく付き合っていくとよいでしょうか。ついつい、**頭がお留守状態**になって、重要な情報を見落としてしまうと、患者さんに害が発生します。

2．システム２：論理的思考能力＜遅い＞

システム２と呼ばれる思考システムは、システム１の判断を監視したり、異議を唱えたりします。

腰が痛いという患者に MRI 検査を行いました。報告書には、「腰椎に問題はない。●●にも問題ない。●●は、・・・・・（数行省略）。また、腹部に大腸がんがありそうです。精査してください。」というような報告が記載されていたとしましょう。システム１は、腰の検査に関係する部分だけちらっと読んで、ああ、問題ない、と直感で考えることがあります。残りを読まないので、がん疑いの情報が見落とされます。

システム２は、最後までよく読んで、精査が必要なことを理解します。短時間で対処しようとしているシステム１に対して、**時間をかけた対応をとるのがシステム２**です。しかし、システム２の脳の作業には、大きなエネルギーが必要です。しっかり考えるので作業が遅く、疲れやすい、だから、あまり、システム２を使いたくない（怠けやすい）という欠点があります。眠かったり、疲れていたり、空腹だったりするとシステム２は働いてくれません。**衝動的で直感的なシステム１は、**働き者の脳ですが、信じてしまうと大きな事故につながる可能性があります。



脳の中では、システム１とシステム２が漫才しているようなもの

私たちの頭の中には、２つのシステムが共存しています。２つのシステムを意識して切り替えながら、**今はシステム２の出番だ**、と意識して、ここぞというときには、しっかりと確認したいものです。

＊今回は、「**システム１とシステム２**」について、お伝えしました＊